

<シナリオ 前半>

●プロローグ

A校デザイン学科映像デザインコースの田嶋先生は、学生に社会のニーズを理解させ、社会の課題を解決できるような人材育成のために外部連携窓口の担当者として勤務している。学生には、専門職としての知識とスキルを身に着けることはもちろん、社会で活躍できる人材になるために、社会人としての素養も身に着けてほしいとの思いから、学年など発達段階に合わせたスキル獲得や資質能力育成ができるような取組みを実践課程のカリキュラムに組み込もうとしている。

●活動開始前

ある日、地域の企業からPR動画の制作について、依頼があった。この案件は企業側のニーズを踏まえると2年生前期の学生が十分に対応できるものであると考え、2年生前期の実践教育課程で取組みを考えた。具体的な導入にむけて、田嶋先生はまず企業の担当者と打ち合わせの機会をもち、企業の意向を詳しくヒアリングするとともに、学生にとっての社会とつながる学び機会であることや学校のディプロマポリシーを示し、職業実践専門課程だからこそ、学生が学ぶべき内容やめざす成果物のクオリティを企業の方にも明確に伝えた。企業側とプログラムにおける学習目標を確認し合意も得て授業としての実践を開始することになった。

●最初のコンペ(個人での映像企画)

2年生前期の実践教育課程では、それまでに校内や授業内で培った企画力を、外部に向けて発揮する初めての機会になるため、企画は個人制作し、学年内のコンペを行うことにした。コンペを前に、企業側の担当者とは評価の観点を整理し、ルーブリックで共通認識できるようにして評価基準を作成し、その評価基準は学生にとっての学習目標として共有することとした。同様に、チームでの共同作業においては、成果物の評価だけではなく、活動を評価するためのルーブリックを使用。田嶋先生が基準を設定し、各チーム、各学生個人に対して評価ができるよう準備している。その評価基準についても、学生に提示され、さらに学生側が「ここをがんばりたい」と思う規準を選び、特に評価してほしい項目として意思表示ができるようにしている。ディプロマポリシーの内容を網羅できるように設定している規準となっており、基準はそれらが段階別で評価できるように設定している。

学生が授業で企画を作っていくにあたり、企業側の担当者が依頼したい映像制作についての説明を学生に向けて行った。その説明会では、質疑応答も含めて、企業側のニーズをヒアリングする機会として設定した。

学生の人数が30名であるため、まずは前述のとおり、学内でのコンペを行う。ここでは、学校代表として企業側に提案するための5つの企画を選出する。学生たちにもルーブリックで採点をさせ、代表の5つの企画を選定した。

●制作活動

5つの企画書に対して、6名のグループで映像制作を行うようにして、そのチームの中での役割分担を行った。

制作進行も含めて学生に任せる形で進行させ、田嶋先生は学生の相談にのり、滞りなく進んでいるかの統括的役割を担い、実践教育課程の中で学生の様子を見ながら協働ができるようフォローをした。制作進行中、定期的に進捗状況を報告する会を行っており、その中でお互いの進捗はある程度わかるようにして、他チームの進行と自身のチームの進行の比較ができるようにした。

●次のコンペ(グループでの映像)

コンペの日程は事前に企業担当者を決めておき、そこで選ばれた映像についてはその後は修正、納品まで1本に絞り込まれることとなる。コンペ当日は、企業担当者とともに企業側で設定した審査員も同席するようにした。また、学校側の審査員として田嶋先生と学科長、部長にも出席を依頼し、学生への評価をしていただいた。各チームプレゼン後にチーム向けに企業側、学校側の審査員から評価コメントをいただき、社会で通用するクオリティにするには、という視点で、具体的に改善点を指摘してもらった。最終的に審査員による審査で納品へ進む1本を選定した。

●納品(コンペ)後

コンペでいただいたコメントと、改善点の指摘から、その後の自身の学びやスキルアップにつながるよう、全員共通のふりかえりアンケートをもって、今後、成長のために何にチャレンジしたいかを言語化した。最終的に選ばれて納品された動画については、学校のwebサイトにも掲載され、学生たちは自分たちが制作した企画や動画をポートフォリオとして使うことができるようにしている。

プログラム全体、産学連携の価値についてのふりかえりは、生徒のアンケートとは別に、企業側の担当者、学校側の関係者でふりかえりの会議をもち、今年度の当初計画(ねらい)などが達成できたか、次年度に向けて改善点はないかなど、話し合いを行い、活動を終了した。活動報告については、学科のwebサイトに掲載している。

カリキュラム概要一覧

時期	外部連携のねらい/概要	注意点/備考
1年前期	知識と技術力育成 ●①④ 課題:スキル習得のための規定課題(個人)	・業界トップランナーの講話 (業界最新動向、社会課題解決事例 など) 実施時期:4月
	映像制作に関する外部講師を招聘し、講話や授業を行うことで、幅広い知識や技術の習得を目指す	自身はどのような映像制作を手掛けたいのか、それによって社会に何をもちたしたいのか、そのためにはどのような知識や技術、能力が必要か、必要な知識や技術、能力を身に着けるために自分がなすべきことは何かを考え、まとめたレポートを提出。 ➡学期を通じてふりかえりの際に見直しを行い、自己評価やブラッシュアップなどを行う。
	企画力と表現力育成 ●①②④⑤ 課題:映像企画とプレゼン映像(個人)	・業界のプロの講義を連続で開催 (基礎技術、最新技術の紹介、スキル習得) 授業内容は担当教員が調整を行う。
	自身の身の回りの社会課題について取り上げ、そ	学生が講話のレポートの中でどのような知識や技術を身に着けたいか考えた中から一部、教員が必要と考えた内容をピックアップしたうえで設定する。 学生は、技術習得のための既定の課題に取り組み、身に着けられるようにする。
		講話、授業を行った外部講師に対して、自分が考えた課題解決のための 自分が解決したい課題に対して、どのような映像が最適なのか、また、その映像を制作するために必要な知識や技術は何かを理解できるようなまとめとなるようにする。

	<p>れらを解決する映像を企画し、外部講師に対して映像でプレゼン</p>	
	<p>学期ふりかえり</p>	<p>前期ふりかえり 講話後に提出したレポートをもとに学生が自己評価、今後に向けて自身の目標をブラッシュアップする。</p>
1年後期	<p>技術力とコミュニケーション力育成 実践1 外部依頼対応 ●①④⑤⑥ 課題：映像制作の分担された部分(個人)</p>	<p>1年生の前期で学んだ知識とスキルを活かして、制作の中で技術的なスキル発揮にチャレンジし、身につけているか自分自身で検証を行う。</p> <p>調整や進行、納品は教員が担当し、学生は期日までに指定された条件の映像を仕上げるために分担された部分を責任をもって仕上げ提出する。</p>
	<p>外部からの制作依頼に対して、納品までの課程のうち、「制作」部分を担当し、納期までに仕上げることを体験</p>	
	<p>企画力と表現力育成 ●①②④⑤ 課題：企画とプレゼン映像</p>	<p>外部講師のフィードバックと自身の学びを反映し、ブラッシュアップした企画とプレゼン用の映像で関係者にプレゼン。関係者からフィードバックをいただく。</p>
	<p>1年前期で企画した内容をブラッシュアップし、関係者へプレゼン</p>	<p>対象者のニーズに合致した内容になっているかを検証し、最終ブラッシュアップを経て企画と映像を提出する。</p>
	<p>学期(年度)ふりかえり</p>	<p>後期(年度)ふりかえり 講話後に提出したレポートをもとに学生が自己評価、今後に向けて自身の目標をブラッシュアップする。</p>
2年前期	<p>■企画力と思考力育成 □制作力とコミュニケーション力育成 実践2 外部依頼対応 ●①③④⑥</p>	<p>■地域のニーズから、学校に来ている依頼について、クライアントヒアリングなどを行ってより深堀し、映像で解決できるような映像企画を作成提案する。(個人企画プレゼン、コンペ形式)</p>
	<p>外部からの制作依頼に対して、納品までの全工程を学生が役割分担しながら体験</p>	<p>□採用された企画をグループで共同制作することで、協働して作品を仕上げることを体験。調整や進行、納品についても学生が担当し、教員はフォローを行う。</p>
2年前期/後期	<p>個人卒業制作 ●①②③④⑤⑥</p>	<p>新たな創造へのチャレンジとなるような制作を行う。個人の興味関心に基づいた映像制作を行う。どのようなテーマでも良い。</p>
	<p>個人探究による企画制作となるため、全ての肯定を自身で管理。フリーランスで従事した場合の自己管理を体験</p>	<p>自身が最も良いと思う構成、技術などを駆使して1年間かけて個人で企画制作。</p> <p>・オリエン(フリーランスでの自己管理想定、自身のポートフォリオとして制作することを伝える)</p>

2年前期	学期ふりかえり	前期ふりかえり 講話後に提出したレポートをもとに学生が自己評価、今後に向けて自身の目標をブラッシュアップする。
2年後期	共同卒業制作 ●①②③④⑤⑥	新たな創造へのチャレンジとなるような制作を行う。地域貢献を兼ねているため、問題発見のためのフィールドワークからスタートし、映像で解決できる社会課題を決めて取り組むこと。1年生で企画したものを元にしても良い。
	実際に映像制作を仕事とした場合の一連の業務を体験	
	学期(年度、2年間)ふりかえり	後期(年度、2年間)ふりかえり 最初にたてた「なりたい姿」の達成度合いを自己評価、今後社会に出てどのような人材になりたいのか、何をなしたいのかをレポートにまとめて提出